The Zoological Society of Japan





# ●誤られたるハチクマ *Pernis apivorus* Cuv.

獸醫學士　内田清之助

予は近頃松平頼孝氏所藏の標本中に鷹の一種で黑色大形の今迄あまり見掛けた事のない種類のある事を知つて同氏に乞ふて其標本を調べて見る機會を有した。それから此標本をよく調べて見ると此鷹はハチクマ *Pernis apivorus* Cuv. の若いものである事が明になつた。所で動物學教室所藏の鳥類標本目錄を見ると此ハチクマ *P. apivorus* なる種類は二個標本がある筈なので比較の爲之を出して見ると松平氏のものとは全く異つた種類で大さも非常に小いものである事を發見した。

丁度其時分動物標本社から人が來て居て標本屋でハチクマ *P. apivorus* なる名で取扱ふものは動物學教室の標本と似た樣な種類であると云ふ事だつたので早速標本屋の所謂ハチクマなる種類を取寄せて見ると果して動物學教室所藏のものと同種類であつた。そこで予は今迄我國で用ゐ來つたハチクマなる名稱に疑を懷いて來たので尙良く調べて見樣と思つて取り敢へず動物園目錄によりて動物園飼養のハチクマの如何なるものであるかを見樣と思つたのであるが同園のは既に斃死して見る事は出來なかつた。然し同園主事黑川氏の談話によつて見るとやはり動物學教室所藏のものと同じらしく思はれたのであつた。黑川氏は其標本は多分博物館にあるだらうと云ふ事であつたので又同館の標本を調べて見た所之もやはり動物學教室のものと同一種である事が分つた。(之は予が見たのではないが波江元吉氏が調べられたのだから確である。)

元來 *P. apivorus* なる種類は後に述べる通り甚特徵のある鷹であつて然かも予は念の爲め再三色々の書物で調べて見たのであるが常に初めの時と同一の結果を得た。して見ると從來我國でハチクマ *Pernis apivorus* なる名稱は凡て誤つた種類に命名せられて居つたのであると云はなければならない。

其所で余は次に更に進んで外國人の査定した標本について調べて見度いと思ひ幸にしてブラキストン氏の標本が尙札幌博物館に集つて居るので東北農科大學の八田教授の好意によつてブラキストン氏蒐集標本中のハチクマ二個に就いて次の測定を知る事が出來たのである。

甲　函館產

翼　三三セ、メ、　尾　一五・五セ、メ、

蠟膜　黃色(?)

乙　千島產(?)　スノー氏採集



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



翼　三二セ、メ、　尾　一五・〇セ、メ、
蠟膜　黄色(?)

此測定から考へると此二標本も眞のハチクマと比べると餘程大さが小形であつて從來所謂ハチクマと稱せられたる者とよく一致して居る。恐らく同一種であらうと考へられるものである。

以上述べた如く予の出來得る限り調べた範圍内では皆ハチクマと稱するものは誤つて居る。鳥の如き人のよく知つて居るもので特に鷹の如き大形の種類に於て斯の如き誤を傳へられて居つたのは實に驚くべき事と思ふ。蓋し此誤を來した元は恐らく前記のブラキストン氏の標本でありはせぬかと思ふ。而して其誤を流布せしめた原因は動物學教室所藏の標本であつたかも知れない。

次に予は此誤を正す爲に眞正のハチクマ *Pernis apivorus* に就て記載を試み而して從來の所謂ハチクマなるものは如何なる鷹であるかを明にして置かうと思ふ。一體ハチクマ *Pernis apivorus* なる鷹は雌雄年齢によつて著しく相違があるので圖でも分る通り其極端なものになる一見した所同一の種類とは信ぜられない位である。然し其頭部の羽毛の特異なる事と及び尾羽の斑紋の顯著なる事(尾羽の方はやはり變化するけれ共然も他のものに比し特異なり)とによつて容易に他の鷹と區別する事が出來る。次に予の檢し得た標本によつて老幼の記載を試みよう。

第一圖
ハチクマ *Pernis apivorus* Cuv. 雄成鳥(歐洲産のものにして本篇記載のものと頭部の色彩少しく異れり)

**ハチクマ *Pernis apivorus* CUV.**

成鳥　雄?　田中某氏所藏(第一圖參照)
産地　北海道ならん。
嘴峰　三八ミ、メ、　跗蹠　五八ミ、メ、
中趾(爪を除く)　五二ミ、メ、　翼　四三〇ミ、メ、
尾　二六〇ミ、メ、

極めて美しき鷹にして頭上の羽毛は白色にして先端黑



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan





褐色前額部の羽毛は先端黄白色なり。後頭及頸上部の羽毛は白色にして先端に黒褐色楕圓形の斑點を有し其周圍は淡褐色に最先端は白色なり。肩及び背は褐色にして微に紫赤色の光澤を帶ぶ此部の羽毛の基部は白色にして腰の方に至るに從て基部の白色增加す。顏の羽毛は細くして密に併列し鱗狀を呈する事此種の特長なり其色は眼前部より眼の下部のものは白色にして先端黒褐色而して眼前部にありては基部の白色は先端の黒褐色部に全く覆れて一樣に黒色を呈するも眼下部に於ては點々基部の白色露出す。眉部は極めて淡き焦茶色にして不判然なる眉斑を形成す。耳羽は眉と同色にして先端及中軸は黒褐色なり翼の雨覆は略背と同色にして中雨覆は先端に少しく白斑あり大雨覆は先端及び內翮白し。初列風切は黒褐色にして灰色を帶び先端は細く白色に緣取らる第三初列風切以下は外翮に數個の橫條を有し內翮の基部三分二は純白色にして內に數個の楔狀橫斑あり。次列風切は色稍淡くして灰色を帶びず先端の白色緣は幅廣し。風切裏面は黒褐色にして其內翮の基部は白色にして內に不判然なる狹き褐色斑あり此基部白色部は第一風切より以下次第に其幅を增加し且其內の褐色斑次第に判然となる即第一風切にては內翮の略二分一白色にして殆ど褐色斑なきも次列風切に至りては全部一樣に灰白色にして判然せる鷹斑を有す。下部雨覆及び腋羽は白色なり。下面は腮喉は純白色胸部は稍黃褐色を帶び其羽毛の中軸及び其附近は黒褐色なり。腹部の羽毛は白色にして中軸黒褐色にして末端に近く淡褐色圓斑あり。脇部の羽毛は白色にして數條の淡褐色斑あり。下腹部及び下尾筒は白色上尾筒も白色にして其羽毛の前半は淡褐色を帶ぶ。尾羽上面は灰褐色にして先端白色に緣取られ黒褐色の橫斑數條を有す此橫斑は尾の先端にあるもの最幅廣く內外翮のもの同位置にありて一直線をなすも其他の數條は內外翮のもの喰ひ違へり。尾羽の基部は白色にして不規則なる褐色小斑あり。尾下面は灰白色にして三條の黒褐色橫條あり其基部より第一と第二のものの間の幅は約二五ミ、メ、にして第二と第三との間は六〇乃至七〇ミ、メ、に達す共に其間に更に數條の淡き橫條を有す。脚は黃色にして跗蹠は上部に羽毛を生ず。嘴は黒褐色にして下嘴の基半部は橙黃色なり。蠟膜は此標本にては褐色なるも生ずものは黃色なるべし。鼻孔は上部膜を以て覆はれ爲に開口は線狀をなし斜に位置す。

**第二號**　幼鳥　雌？松平賴孝氏所藏（第二圖參照）

產地　日光

嘴峰　三八ミ、メ、　跗蹠　五五ミ、メ、

中趾（爪を除く）　五四ミ、メ、　翼　四五五ミ、メ、

尾　二五三ミ、メ、

全體黒褐色にして紫赤色の光澤を帶ぶ。頭上部、後頭、頸の羽毛は他より濃色にして各羽毛は基部二分一以上純白にして中軸は黒し故に是等の部にては所々に白色を散



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



見す。顏(圍顏部、頰、眼前部)前額、腮の羽毛は著しく細く鼠色にして濃色の中軸を有す其排列の狀は本種に特異なる魚鱗狀をなす。翁は黑褐色にして稍著しく紫赤光澤を帶ぶ腰及び上尾筒は翁に略同じきと稍赤味を帶び紫色光澤に乏し。翼の風切は黑褐色にして紫赤光澤を帶び褐色の數條の鷹斑あり又內軸には數條の楔狀白斑を有し基部は白色なり。風切の裏面は褐色にして數條の幅弘き灰白色橫條あり此灰白色部の中には更に淡褐色の斑紋あり。腋羽及び下雨覆は背と同色なり。下面は一樣に黑褐色なるも胸の邊稍色淡し下腹及び下尾筒の羽毛中には數條の白色橫帶を有するものあり。上尾筒は細き白橫條を有す。尾は黑褐色にして基部は白色にして不規則なる小斑紋あり。先端は細く灰色に緣取らる。其他二條の灰褐色帶あり其基部に近きものは細くして顯著ならず他の先端に近きものは幅廣く(五乃至六セ、メ、)其內に更に四五條の褐色橫帶を有す。尾の下面は上面に類するも一體に色取り淡く灰褐色部は殆灰白色に近く其內に更に灰色の橫帶ある事上面に於けるが如し。脚嘴蠟膜等前標本に同じ。

**第三號** 幼鳥 雌? 田中某氏所藏

產地 北海道ならん。

嘴峰 三七ミ、メ、 跗蹠 五三ミ、メ、

中趾(爪を除く) 五五ミ、メ、 翼 四四〇ミ、メ、

尾 二四五ミ、メ、

大體の色彩第二號に同じきも一般に色稍〻淡し。

第二圖

ハチクマ *Pernis apivorus* Cuv. 幼鳥。松平頼孝氏所藏日光產。剝製良しきを得ざる爲姿勢實物と著しく異る。

以上述べた所によつて *Pernis apivorus* なる鷹の如何なるものであるか及び從來本邦で命名し來つたものは全く異るものである事は明になつた。然し尙一考を要する事は *Pernis apivorus* なる名稱は誤用されて居つたとするも其和名ハチクマは或は正當なものではなからうかと云ふ問題である。言葉を替へて云へばハチクマなる名は *Pernis apivorus* の和名としては不適當なものではなからうか。





NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



（論　説）○誤られたるハチクマ（内田）

飼籠鳥第二十卷の鵰（クマタカ）の條下に、

『奥州の深山には希に來る其種も亦た大小あり其尾色一ならずして黑き物有り若くして斑ある物あり其老いて黑く尤も大なる物をハチクマと云ふ云々』

とあり。又同書羌鷲（ハヤブサクマ）の條下には、

『一名亞旣刺和名ハチクマ　滿洲より蝦夷の地方へ渡來ると云　乃ち羌鷲の產なる故に羌鷲と名く其形狀鵰に類して尤も大なり日本には未だ是を使ふ事を得ず云々』

是によつて見ると其大さの點及び老若轉倒して居るが兎に角黑色のものゝある事を指摘して居る點等から考へて和名ハチクマはやはり *Pernis apivorus* に相違ない樣に思へる。尙念の爲古事類苑動物部のハチクマの條下を見ると、

『八雕　雕類而黑色尾羽斑文稍大而黑白或正直或錯雜如畫間背八字斑最爲珍奇故稱八鵰乎此亦造箭羽以競奇也世俗所謂八者八幡之八而八幡神者武職常尊崇之源姓之族最然於是以有八字斑爲貴或曰蜂鵰言如蜂之雄此末爲當焉云々』

此記載も亦前記の說を確めるに足るものである特に尾羽の記載に至つては稍 *Pernis apivorus* の特徵を彷彿せしめる。然し其名稱の起元を說ける所は面白い考であるが牽强附會たるを免れない。現に觀文禽譜には此說を批評して、

『ハチクマと云は努て蜂を養ふよし淸二位宣賢卿の神代抄に見たり蜂クマの羽には八の字の樣なる文ありと云八字の文ある故ハチクマと云に非ず』

と云つて居る。此に云ふ『蜂を養ふ』と云ふ事は少しく意味が明瞭でないが *Pernis apivorus* は好んで蜂の巢を襲い之を食とする事は外國では古くから知られて居る事で *apivorus* なる名も全く此習性に起因して附せられたのである。要之ハチクマなる名稱は *Pernis apivorus* の和名として決して誤れるものではないのである。從て從來用ゐ來つた命名は和名共に誤つた鳥に向つて附せられて居たのである。

扨上に述た所で眞正のハチクマ *Pernis apivorus* なる鷹は如何なる鷹であるかは明になつたが然らば從來の所謂ハチクマ *Pernis apivorus* は何であらうかと云ふに其多くはサシバ *Butastur indicus* (GMELIN) である。さうすると又從來サシバと云つた鳥は何んであるかと云ふ問題が當然起るのであるが其邊は餘程混同して居つて確には分り兼ねるが恐らくサシバも老幼の差の甚しいものであるから其幼い者をハチクマと云ひ老いたものをサシバと稱へて居たものではないかと思ふ。但し此邊のアムビギアスな點は標本屋の名稱の話であつて前に云つた博物館や動物園や札幌のコレクション等では只ハチクマ一つ丈が誤つて居たのであつて其他は勿論ソレ〴〵適當な名が附いて居るのであらうと思ふ。



NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan



次に從來ハチクマの身代りになつて居たサシバが如何なる鳥であるかを記載して以て此項を終らうと思ふ。

**サシバ** *Butastur indicus* (GMELIN)

成鳥、雄

嘴峰　二九ミ、メ、　跗蹠　五九ミ、メ、

翼　三三〇ミ、メ、　尾　一九〇ミ、メ、

體の上部は一般に褐色なり。頭の前額部は白色頭上より後頸は灰褐色にして各羽毛の緣は赤褐色なり。顏は灰色にして眼上には不判然なる白色眉斑を有す（極めて老成せるものにはなし）。頸側は褐色にして赤褐色斑點あり。

**翼**の兩覆は背の色より稍赤味を帶び赤褐色小斑散在す大雨覆は褐色にして內翮に赤褐色の斑紋を有す。第一風切も黑褐色にして數條の黑帶あり第二風切も略同樣なれ共稍赤味多し而して其下面は灰色にして褐色橫條を有する事表面に同じ。**下部**腮喉は白色にして其羽毛の中翮に沿ひ黑條あり上胸は褐色にして赤褐色及白色斑を混じ其以下の部は白色と赤褐色の橫帶交互す此橫條は下部に至るに從ひ白色部廣くなり遂に下尾筒に至りて全く白色となる。上尾筒の羽毛には白色の橫條を有し先端も白色なり。

**尾羽**は上面灰褐色にして四五條の黑帶を有し先端灰色なり下面は淡灰色にして黑色橫帶ある事上面に同じきも上面に於るよりも判然せり最外尾羽には黑帶を缺く。**嘴**は先端黑色にして基部は黃色**蠟膜及脚**亦黃色なり。

雌は雄と殆ど同じく只少しく大形也。

幼鳥は成鳥に比するに一般に赤味を帶び頭上部の羽毛は黃白色にして中軸褐色なり。腹面の地色は淡黃褐色にして喉には不判然なる黑縱條あり胸の羽毛は中軸に沿ひ黑褐色の縱條あり此縱條は腹部に至るに從ひ幅を增し先端細く三角形となる。腹部及び腹側の羽毛は數々の橫條を有す。腰部に至りては斑紋は略スペード形となる。下尾筒は淡黃褐色なり。

附記一、ドレッサー氏は其著 A Manual of Palaearctic Birds 中 *Butastur indicus* にサシバの外ハチクマなる和名を擧げて居るが之は本邦の誤用したる標本の和名を見て斯樣に記したので別に意味はない事と思ふ。

附記二、本篇を草し終つた後松平氏は更に信州より二羽の老鳥を獲其一を動物學教室に寄贈せられた。今回の標本は大體前記田中氏所藏のものと同じいが頭部特に顏は一樣に灰色で第一圖歐洲產のものと同じ即田中氏のものよりは稍若いものであらう。體の測定次の如し。

嘴峰　三七ミ、メ、　跗蹠　五九ミ、メ、

中趾(爪を除く)　五一ミ、メ、　翼　四三〇ミ、メ、

尾　二五〇ミ、メ、

附記三、一二の動物標本業者の談によれば、從來本篇に記した眞正ハチクマは稀に取扱つた事があるがクマタカ雄として賣買して居たと云ふ。

本篇を草するに當り波江元吉氏の與へられたる諸種の懇切なる援助に對し玆に深く感謝の意を表す。



NII-Electronic Library Service